



チャールズ・ブラウンさん  
文部省英語指導主事助手の一人として、熊本県内の中学校を訪問して生きた英語の指導にあたっている。

開化に活躍をしたということですが、さらに、私にとってうれしくなる話があるのです。というのは小楠の二人の甥、横井左平太と、横井大平が、アメリカに渡り、日本最初の留学生となったその留学先が、なんと私の母校ラットガーズ大学（ニュー

## 旧邸に、幕末・明治の先人を想う。

水前寺公園近くにあるジェーンズ邸、みなさん訪ねられたことがおありでしょうか。ここへ来ると、幕末から明治にかけての思想・政治・教育をはじめとしていろんな分野で活躍した熊本の先達、熊本ゆかりの人々が想い偲ばれ、感慨無量になってきます。

私のような、アジア研究生というが、日本について勉強することに興味をもっている外国人にとって、ここ熊本に住んでいることは、とても幸運なことだと感じています。

私が、これまでに学んだ熊本の文化や歴史のなかでとくに興味深かったのは、横井小楠に関することです。江戸時代末期に、越前藩主松平春嶽に迎えられた小楠は、当地の藩政改革に貢献し、尊敬と厚遇を受けたのです。その後、幕府にとりあげられ、助言者として側近にあり、近代日本の



ジャージー州)だったという事実です。その話を聞いて、私はますます彼らに、そして熊本に興味と愛着を持ったのです。ところで、横井大平は、帰国後、郷里熊本を開明に導きたいと念じ、熊本で最初の洋学校設立に奔走し、また外人教師の雇い入れを熱心に進言しました。大平は、その後洋学校設立を待たずに病死しますが、彼の熱意により、ついにL・J・ジェーンズが招かれることになったのです。

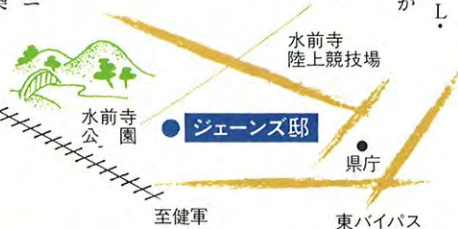
ジェーンズは、五年間熊本に居住し、熱心な教育活動を続けました。熊本バンドの結成とともに、キリスト教運動のひろがり、また後世各界で活躍するすばらしい人材の輩出をみると、ジェーンズの熱意、偉大さがあらためて感じられます。

熊本が、今、各方面で注目を集める先進的な取り組みに成功している理由のひとつは、熊本の歴史が、小楠やジェーンズをはじめ、ここではとりあげませんが、常に将来を目指していた多くの人々に充ちているからだ、と私は思います。

※熊本バンドとは……  
ジェーンズに導かれ、キリスト教に入信した学生たちのグループのこと。明治九年一月三十日、花園山で祈禱会を開き、キリスト教をもつて祖国を救うという主旨の奉教趣旨書に署名誓約した。その数三十五人。

### 熊本洋学校教師館(ジェーンズ邸)

(昭和四十六年 県指定重要文化財)  
明治四年、藩知事細川護久は、洋学校を設立して欧米文化の受容に務めた。このため米人L・J・ジェーンズが教師として招かれ、その住居が学校のあった古館(現第一高校)に新築された。二階の総二階のコロニア風木造建築で、長崎のグラバー邸などと同じ系統である。コの字型のベランダの天井は菱組みで、柱頭にはブドウの図柄がある。



この熊本最初の洋館は当時話題になったらしく、大勢の見物人が押しかけたといわれる。洋学校は明治九年に廃校になった後、県や日赤の所有になり、南千反畑町や水道町に移されていたが、昭和四十四年熊本市が譲り受け、水前寺公園の隣接地に移築された。

### 心のふるさと 民話とわたし



●感想文 天草郡苓北町立志岐小学校 6年 田嶋幸さん  
●感想画 6年 宮崎寛子さん  
●感想画 6年 森田礼子さん

## ぐうたら息子と梨の花



わたしは、こ

の話を読んで、「仕事をする」ということは、どんなに大切かということがわかりました。そのどんなに大切かというの、仕事をしないと家族の人全員にめいわがかるからです。つまり、生活していくのができなくなるからです。そして、仕事の大切さというのを知らない人たちは、他の人は、毎日、あせをながして働いているのに、自分だけ楽をしようと思っっているんだと思います。わたしは、この話で、一番いけないなあと思ったところは、「極道者になり果てた」と書いてあるところが、仕事の大切さを全く知ってない人だなあと思ひびっくりしました。そして、その人が、最後には、畑を打つことだなど気づいて、夫婦で、がんばったところがわたしは、やっと目がさめたんだなあと思って、「やったあ。」と言いたい気持ちになりました。

### 「ぐうたら息子と梨の花」あらまし

天草郡苓北町に伝わる話。昔、ある所に分限者(金持ち)と言われる家があった。年寄り夫婦と一人息子があつた。邸の周りには、小さいが梨の木がたくさん植えてあつて、梨を売って暮らしておつた。ところが、その息子が、甘やかして育てられたせいで、大の仕事を嫌いで、遊んで暮らしておつた。何年か立つうち、息子は嫁をもらい、年寄り夫婦は死んでしまった。相変らず道楽者で、子供ができて一向に働く気配もなく、遂にその日の食にも困る貧乏人になり果てた。ところが、ある夜、死んだ年寄り夫婦が枕元に現れて、「おい、心配すんな。お前たちが貧乏した時に、お前が、梨の木の下に宝物を埋めた。それを掘り出して暮らすよか。ただ、宝物は一つしかなかぞ」と言うではないか。はたして夢だったんだが、息子は、わらをもつかむ思いで早速、梨の木の下を掘り始めた。ただ、どの梨の木の下か聞かなくて、どれでも掘りくり返して、遂に畑全部に及んでしまった。しかし、宝物は出てこんで、そのうち春が来て、梨の木には、白い花がいっぱい咲き、秋には、想像もつかなくらい実がなつた。そのおかげで、いっぺんに暮らし向きが良くなった。実は、宝物は、仕事の大切さだったんだ。息子は、やっとそれに気づいて、その後、夫婦で一所懸命、梨畑を打って(耕して)梨を実のらせ、良か暮らした。たという話。稼ぎに追いつく貧乏なし」とは、良く言つたもんだ。

### くまもとの味と器



### あつあつ、ホクホクの手づくりおやつからいものつき揚げ

苓北町



苓北地方は前方に海、後方に無霜の農耕地をもつ恵まれた地域で、魚介類、海藻、果実類は勿論、路地栽培の早生野菜や甘藷など新鮮な素材を生かした料理や加工品に、生活の知恵を感じさせるものがたくさんある。ケーキよりおいしいといわれるこの「からいものつき揚げ」もその一つ。

〔作り方〕甘藷は厚めに皮を剥ぎ(五〇〇g)拍子木に切つて水にさらす。ボールに玉子三個、砂糖一五〇g、淡口正油大さじ一杯を入れて攪拌した中に、水気を拭きとつた甘藷と薄力粉三〇〇gを入れてよく混ぜ合わせ、五、六本ずつまとめた後一七〇度位の油でゆつくり揚げる。日保ちもよく、おやつに最適である。

郷土料理研究家 松永喜美子  
「器」は、天草陶石を一〇〇%使用した手作りの内田皿山焼。